



瑞穂の四季

発行：三木市高齢者大学大学院自治会
 発行責任者：自治会会長 渡邊 昶彦
 編集委員：板東和己 勝丸桂二郎
 発行日：令和元年7月11日
 自治会便り 第46号

井上新学長あいさつ

「楽しみの大学院」



満開の桜と花吹雪 屋根高く泳ぐこいのぼり 青空や白い雲が映る鏡田
 雨に彩る紫陽花の七変化 風に揺れる青田と酒米のぼり旗。講義日ごとに変
 化する景色が登下校を楽しませてくれます。また、大学院の皆様の意欲に刺
 激を受けております。講座で質問される方の多いこと、行事への協力や和気
 藹々とした雰囲気よさ、地域活動への取り組みは熱中？四苦八苦？ 現時点は様々ですがい
 ずれも熱意が伝わってまいります。春の研修旅行で“鈴虫寺”住職様の楽しい講話の最後に
 日日は好日 そのために他不是吾（他は是れ吾にあらず）とありました。他の人に何事でも
 してもらっては、自分でやったことにはならない。自分で体験したものでないと意味がない。
 「やらされてる」「チャンスをもたらした」せっかく同じ時間を費やすならば「チャンス
 をもらった」と考えよう。きっとたくさんの学びや気付きがあるはず。私たち職員も「日
 日は好日」「他不是吾」で、充実した大学院運営に努めてまいります。よろしくお願いいたし
 ます。

館外研修

鈴虫寺、京都御所



京都御所には、ゴミ一つも なかった！

バスが三木を離れる頃には雨は強
 くなってきた。参加者は35名。
 学生参加率は84%と非常に高
 い。

JA豊地から山陽高速道に入り鈴虫寺に向かった。自然石を重ねた石段の参道を登頃には雨は一段と激
 しくなった。鈴虫の音色に迎えられ、住職の軽妙な説法を聞き、願い事を一つ叶えて下さるお地藏様
 に、手を合わせこれからの人生の幸せを願った。「京都和み館」で春の和み膳をいただき、京都御所
 に向かった。宣秋門の前で記念撮影の頃には雨は上がってきた。広い！大きい！砂利敷きの広場が続
 く！古代以来の日本宮殿建築が並び、それを囲うように高い松の木々が雨にぬれていた。環境美化活
 動を行っている板東さんが呟いた「ゴミが一つもない！」宮殿を囲む松の木も枯れ枝一つ、切り株一
 つも見当たらず平安京の頃からそのままの形で美しく並んでいるように思われた。この広い敷地を清
 掃するには相当の人が毎日関わっておられるだろうが、その人達の影もない。紫宸殿の中は見られな
 かったが、平城京より明治維新まで続いた歴史的な舞台となった場所に佇み、往時を巡らした一時だ
 った。西陣織会館で、スポットライトに照らされた「西陣着物ショー」に心を洗われ、ビンゴゲーム
 を楽しみながら帰路についた。皆様のご協力ありがとうございました。不十分な点多々あったと思
 いますが、旅の思い出としてご容赦下さい。

自治会会長の所信

自治会活動について

今年度の大学院院生自治会は、20名の新しい仲間を迎え、2年生の19名を合わせて、総勢39名でスタートしました。新しい仲間とは言っても、全ての方は、高大時代に3年間、共に学んだ仲間です。

大学院生は大学時代に、自治会活動の主目的である仲間作りを既実践して来ており、かつ在学期間も2年間と短いため、「自然体で、縛りなく、簡素に」をモットーに自治会活動を進め楽しい大学院生活を、大いにエンジョイしたいと思います。そして、大学院で新たに加わるカリキュラム「地域活動」に取り組み易い形（余裕）を作り出したいと思っています。

これまで続けてきた2つのクラブ活動「郷土史勉強会」とカラオケ「瑞唱会」は残念ながら、入会希望者がなく、廃部を余儀なくされましたが、新たに三木市推奨の「シャッフルボードクラブ」と「美しい三木を創る会」を立ち上げる予定です。大勢の方の参加を期待しています。

2年 自治会長 渡邊 昶彦



大学院への思い

高大大学院へ入学して

高大の3年間は同期の役員や学友が助けてくれたとはいえ自治会活動が主で忙しいように思った中で、4年生では実に「楽しく学んで和気藹々」を体感して卒業を迎えられました。このまま楽しく過ごした学友たちと別れ別れになるのがさみしく思い、大学院への誘いを問いかけたら、32人中20人が大学院への入学を表明してくれました。また、学友会においては32人中30人が入会していただき大いに期待されています。さて、たったの2年間だけですが、私自身は今のところ明確な目標が無いのですが、それぞれの活躍の場を見出して各人の思いを達成できるかな、と思いを巡らせているところです。

1年 副会長 小林 敏之



親睦シャッフルボード大会を開催

大学院の年間行事予定に、三木市が推奨している高齢者に適したスポーツ「シャッフルボード」が2回組み込まれています。5月24日1年生の歓迎と大学院相互の親睦を目的に1回目の大会が行われました。井上学長・藤原・橘田両先生にも加わって頂き、多くの参加者を得て、ランダムに8チームを編成し変則トーナメント方式で競技を行いました。

競技では押し出したパックの行方に一喜一憂しながら、童心に戻ったように和気藹々とゲームに興じる姿は「親睦」という言葉にふさわしいものでした。もちろん順位は決まりましたが、最後に優勝チームと最下位チームのエキシビジョンマッチを行った結果、最下位チームが勝利するという結果もあり、競技の上手さはもとより運の方が大きく左右した結果でもありました。競技後は優勝チームのスピーチを交えた表彰式、参加者全員で昼食のお弁当を食べながら、楽しいひと時を過ごしました。

2年 石田 仁志

